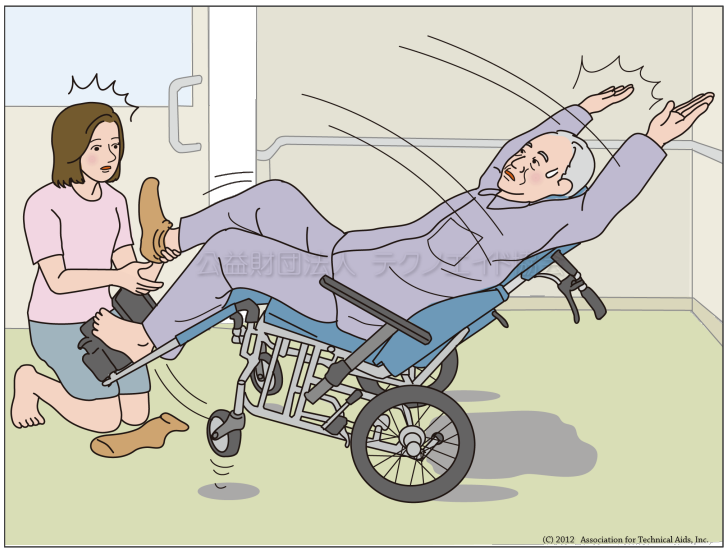
福祉用具ヒヤリハット　研修教材（講師用）

Case：155

バックサポートが倒れていたことで傾き易くなっており、ひっくり返りそうになる

場面の説明

利用者に靴下をはかせるため、介助者が足を持ち上げたところ、車いすごとひっくり返りそうになった



利用シーン	その他
主な利用場所	寝室 リビング・居間 ダイニング・食堂
介護保険の種目	車いす
分類コード (CCTA95)	122190 (姿勢変換機能付き車いす)
介護テクノロジー	ー
二次元バーコード	

解説

リクライニング式の車いすでは、バックサポートを倒した際に重心が偏り後方に転倒しやすくなります。静止している時には転倒しなくとも、前方で足を持ち上げるような介助を行なったり、段差を越えようとした際にバランスを崩しそうになりあわてることが多いようです。一般には安全策として転倒防止バーなどが装着されていますので、しっかりと機能しているか日ごろの確認を大切にしてください。

参考要因（要因の例であり、これだけが正解ということではありません）

人：介助方法が不適切だった
人：転倒防止バーを外していた
人：介助者がバランスを崩すと思っていなかった
環境：転倒防止バーの重要性やこのような介護方法の危険性について教えてくれる人が周囲にいなかった

作成：公益財団法人テクノエイド協会
Copyright 2026 Association for Technical Aids, Inc. All Rights reserved.